

# 略歴と研究業績

菅 壽 一 教授

昭和20年3月11日生

## 〔略歴〕

### 学歴

昭和44年3月 広島大学政経学部経済学科卒業  
昭和46年3月 広島大学大学院経済学研究科修士課程経済学専攻修了  
昭和46年3月 経済学修士（広島大学）  
平成5年12月 経済学博士（広島大学）

### 職歴

昭和46年4月 広島大学政経学部助手（財政学）  
昭和49年4月 広島大学政経学部講師  
昭和49年4月 広島大学政経学部第二部講師（併任）  
昭和51年4月～昭和52年3月  
大阪大学経済学部にて内地研究（財政学、経済政策原理の研究）  
昭和52年5月 広島大学経済学部講師（財政政策）  
昭和52年5月 広島大学政経学部講師（併任）  
昭和53年4月 広島大学経済学部助教授  
昭和53年4月 広島大学政経学部助教授（併任）  
昭和54年4月 広島大学大学院経済学研究科担当（修士課程）  
昭和61年4月 広島大学大学院社会科学研究科担当（博士課程）  
昭和62年4月 広島大学経済学部教授  
昭和62年4月 広島大学政経学部教授（併任）  
平成元年7月～平成2年5月  
文部省在外研究員としてアメリカ合衆国カリフォルニア大学デービス校へ出張（経済の国際化とマクロ政策理論の研究）  
平成5年4月～平成7年3月  
広島大学経済学部附属地域経済研究センター次長  
平成7年4月～平成8年3月  
広島大学経済学部夜間学部主事（併任）  
平成8年4月～平成12年4月  
広島大学評議員（併任）  
平成12年4月～平成16年3月  
広島大学経済学部長補佐  
平成14年4月～平成17年3月  
広島大学研究支援金による特定課題「地域貢献研究」プロジェクト審査委員会審査委員長  
平成16年4月 広島大学大学院社会科学研究科教授  
平成17年4月 放送大学広島学習センター客員教授（～現在に至る）

平成17年10月 広島大学大学院社会科学研究科長選考管理委員会委員長  
平成19年10月 広島大学大学院社会科学研究科長選考管理委員会委員長  
平成20年3月 広島大学定年退職  
平成20年4月 広島大学名誉教授

#### 所属学会

日本財政学会会員  
日本経済学会会員  
中・四国商経学会会員

#### 社会における活動

平成7年4月～平成19年2月  
広島県固定資産評価審議会（会長職務代理）  
平成14年4月～平成17年3月  
広島大学研究支援金による特定課題「地域貢献研究」プロジェクト審査委員会（初代審査委員長）  
平成17年4月 放送大学広島学習センター客員教授（～現在に至る）  
昭和55年9月 広島大学公開講座、『消費経済と消費者問題—財政と物価—』  
平成10年4月 広島大学公開講座、『現代経済入門—税と公債は違うのか—』  
平成16年9月 広島大学公開講座、『構造改革とわたしたちの暮らし—財政赤字とわたしたちの暮らし—』

#### 非常勤講師

琉球大学、岡山大学、広島経済大学、広島電機大学、広島文化女子短期大学、福山大学大学院、放送大学。

#### 〔研究業績〕

##### I 著書

『現代公債理論』（共著）、新評論、昭和49年6月  
『現代財政学』（共著）、新評論、昭和51年6月  
『現代財政学1』（共著）、有斐閣、昭和55年3月  
『財政学の基礎』（共著）、有信堂、昭和55年4月  
『現代財政入門』（共著）、晃洋書房、昭和57年5月  
『政府の経済学』（共著）、八千代出版、昭和60年4月  
『現代財政入門』（共著）、有斐閣、昭和62年3月  
『新版・政府の経済学』（共著）、八千代出版、平成2年3月  
『マクロ財政政策理論の研究—財政赤字動学の分析—』（単著）、広島大学経済研究双書10、平成5年3月  
『入門現代財政』（共著）、晃洋書房、平成5年11月  
『財政』（共著）、有信堂、平成6年3月  
『政府経済学』（共著）、八千代出版、平成8年4月 八千代出版  
『マクロ財政の経済分析—租税と公債の最適な組み合わせを求めて—』（単著）、  
広島大学経済研究双書13、平成20年3月

## II 論文

新古典派成長モデルにおける公債負担（共著）	昭和47年3月	広島大学政経論叢、第21巻第4号
貨幣的成長モデルと公債負担（単著）	昭和47年10月	広島大学政経論叢、第22巻第3・4号
財政の景気安定化機能について－戦後日本経済の実証分析－（単著）	昭和48年8月	広島大学政経論叢、第23巻第2号
恒常成長と公債負担（単著）	昭和48年10月	広島大学政経論叢、第23巻第4号
財政政策のクラウディング・アウト効果について（単著）	昭和52年8月	広島大学経済論叢、第1巻第1号
政府予算制約と財政政策の有効性（単著）	昭和52年10月	広島大学経済論叢、第1巻第2・3号
公債インデクセーションの経済安定効果に関する一考察（単著）	昭和52年10月	広島大学経済論叢、第1巻第2・3号
政府予算制約と安定政策のパラドックス（単著）	昭和55年2月	広島大学経済論叢、第3巻第4号
財政政策の長期的有効性に関する一考察（単著）	昭和56年3月	広島大学経済論叢、第4巻第3号
財政政策の取引・ポートフォリオ効果とマネタリスト論争（単著）	昭和56年3月	広島大学経済論叢、第4巻第4号
資産効果、物価水準および政府予算制約－公債の資産効果についての一考察－（単著）	昭和57年7月	広島大学経済論叢、第6巻第1号
租税、労働供給および財政政策（単著）	昭和57年10月	広島大学経済論叢、第6巻第2号
短期債とクラウディング・アウト命題（単著）	昭和59年6月	広島大学経済論叢、第8巻第1号
インフレーションと財政赤字（単著）	昭和60年7月	広島大学経済論叢、第9巻第1号
財政赤字と資本蓄積（単著）	昭和60年11月	広島大学経済論叢、第9巻第2号
財政赤字と世代間の厚生－公債中立命題をめぐって－（単著）	昭和61年11月	広島大学経済論叢、第10巻第3号
完全予見、公債およびインフレーション－公債中立定理の再検討－（単著）	昭和62年11月	広島大学経済論叢、第11巻第2・3号
財政赤字の持続可能性について－Domar定理と資本蓄積－（単著）	平成2年12月	広島大学経済論叢、第14巻第1号
財政赤字の最適ファイナンスについて（単著）	平成3年3月	広島大学経済論叢、第14巻第3・4号
個人消費税と財政政策－課税ベースの選択をめぐって－（単著）	平成6年7月	広島大学経済論叢、第18巻第1・2号
ケインズ政策と財政赤字－自然治癒仮説・再考－（単著）	平成8年6月	広島経済大学経済研究論叢、第19巻第1号
財政健全化の経済学（単著）	平成10年3月	南山経済研究、第12巻第3号

財政政策のクレディビリティと持続可能性について（単著）	平成10年11月	広島大学経済論叢、第22巻第1号
財政赤字と財政再建—政府予算制約の含意を中心に—（単著）	平成15年7月	広島大学経済論叢、第27巻第1号
財政の持続可能性指標とその含意—収束か発散か—（単著）	平成17年7月	広島大学経済論叢、第29巻第1号
公債、租税、および経済成長—財政赤字のクラウドイングアウト仮説・再考—（単著）	平成19年8月	広島大学経済論叢、第31巻第1号
Ⅲ ディスカッションペーパー		
Long-run Effects of Government's Deficit-Financing Policies in a Neoclassical Growth Model（単著）	昭和63年11月	Discussion Paper 1988-1、Hiroshima University
Government Debt and Wealth Effects in a Growing Economy（共著）	平成元年3月	Discussion Paper 1989-1、Hiroshima University
財政の持続可能性指標とその含意（単著）	平成17年4月	広島大学、ディスカッション・ペーパー 2005-3
公債、租税、および経済成長—許容可能赤字率が最低必要税率か—（単著）	平成19年2月	広島大学、ディスカッション・ペーパー 2007-1